

70年前の八丈島

② 末吉

傾斜地は棚田に 漁業は島内一 村財政は豊か



92年前の1927(昭和2)年の統計資料『八丈島概観』(東京府発行)には、島内5村の田畑の面積が記載されている。表。実面積は、反別帳の約2倍であった、との注釈が付いている。

70年前(昭和24年)の空中写真を見ると、平地が少ない末吉でも、傾斜地は棚田にするなどして土地を高度に利用していたことがわかる。末吉はテングサ漁をはじめ漁獲高は島内一を誇り、村の財政は豊かだったので、小学校の美しい木造校舎、写真中央のやや右は絵葉書にもなった。崖崩壊から30年後の洞輪沢漁港は、左端に写っている。

土地利用の状況は、昭和30年頃から工業立国へシフトした国の政策と連動している。国は水田転作奨励補助金を出して減反を推進した。江戸時代の反別帳をみても、島内の水田は60畝もあったが、都八丈支庁の『事業概要』によると06年にはとうとうゼロに。最新の2015年の統計資料では1畝になっている。末吉の棚田では、わさびも栽培されていたと聞く。(つづく)

1927(昭和2)年 東京府発行「八丈島概観」(単位:畝)「面積ハ反別帖ニ依ル、実面積ハ約二倍ナラン乎」と注釈あり

土地利用状況

	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉	合計
田	17	17	7	21	5	67
畑	262	466	135	281	261	1405
山林	336	338	55	52	48	829
原野	37	67	—	—	—	104
その他	2	45	1	1	1	50

田畑面積の推移

西暦	田	畑
1927年	67畝	1,405畝
1960	60	517
1970	47	422
1980	21	152
2000	2	177
2015	1	89

戦後の統計は、都八丈支庁の『事業概要』による。1927年当時と比べると、畑の減り方がものすごい。ただ、1970年ごろから新たな分類に口畑などの「樹園地」が登場するようになり、1980年代以後は200畝前後で推移している。

五輪前 島しよ調達 夜間工事などハードル高く

空港ビル 大規模改修断念 ロビー拡張もかなわず

体強度に問題がないとの結果が出たのを受け、新築ではなく大規模改修を行う方針を決定した。

その後、浄化槽や給排水設備、照明など、急を要する部分から改修を進めてきた。都とも協議してロビー部分の増築を含めたビル全体の大幅改修の設計図を描き、借入れなどによる資金計画も立案してきた。

1982(昭和57年)の供用開始から約37年が経過する八丈島空港ターミナルビル。長年の塩害などでビルの損傷が目立ち、大規模な増改築工事を計画していたが、事業費の面などで業者と折り合いがつかず、このほど正式に断念した。空調設備の更新など、ビルの延命化に向けた部分的な改修を行うことになった。

所有者のHAT(八丈島空港ターミナルビル株式会社)が、大規模なリニューアル計画を明らかにしたのが4年前。前年度の耐震診断で、建物の駆

改修を行うことになった。10月1日宿泊分から適用する。ちなみに和室(16・8平方)の島民・関係者宿泊基本料金(食事別)は▽1人利用116100円▽2人利用115500円▽3人利用114900円。

島嶼会館

10月から料金改定

10月に予定されている消費税率改定にともない、島嶼会館の宿泊料金や会議室の使用料金が改定される。

専務に吉田倫久氏

同社の第39回株主総会が14日に開かれ、代表取締役専務の高木浩司氏が退任し、後任に全日空の吉田倫久氏が就任した。

八丈島観光協会

会長、副会長再任

八丈島観光協会の理事会が12日に開かれ、会長に山下美生子氏、副会長に歌川真哉氏、山田幸也氏を選任した。いずれも再任で、任期は2年間。

南海俳壇 八丈俳句会(六月例会)

荷を解くやトマトひんやり志
新元号令和を讀え夏舞台
青嵐去りて野鳥の森に鳴く
物欲の断ち切れぬなり蟻地獄
父の日のかけ薄きかなゆすら梅
久々の早乙女笠に足止めて
背骨まで染み渡りたる夏日かな
杜若遠流の將の妻の墓

菊池 里
石井 暖流
鈴木美佐子
広瀬 召風
百川 正子
浦山 太市
林 みよ子
平井 園子